

- **大きな全体のゴール：** 持続可能な世の中（環境、社会、経済）  
＝ 「現在の世代が自らのニーズを満たすだけでなく、将来の世代が自分たちのニーズを満たすために必要な環境、社会、経済的リソースを維持することができる社会」

- **企業の持続可能性への貢献方法：** 全ステークホルダーの利益をバランスよく考慮

- 株主、顧客、取引先、社員、地域社会、政府機関、将来世代、地球環境

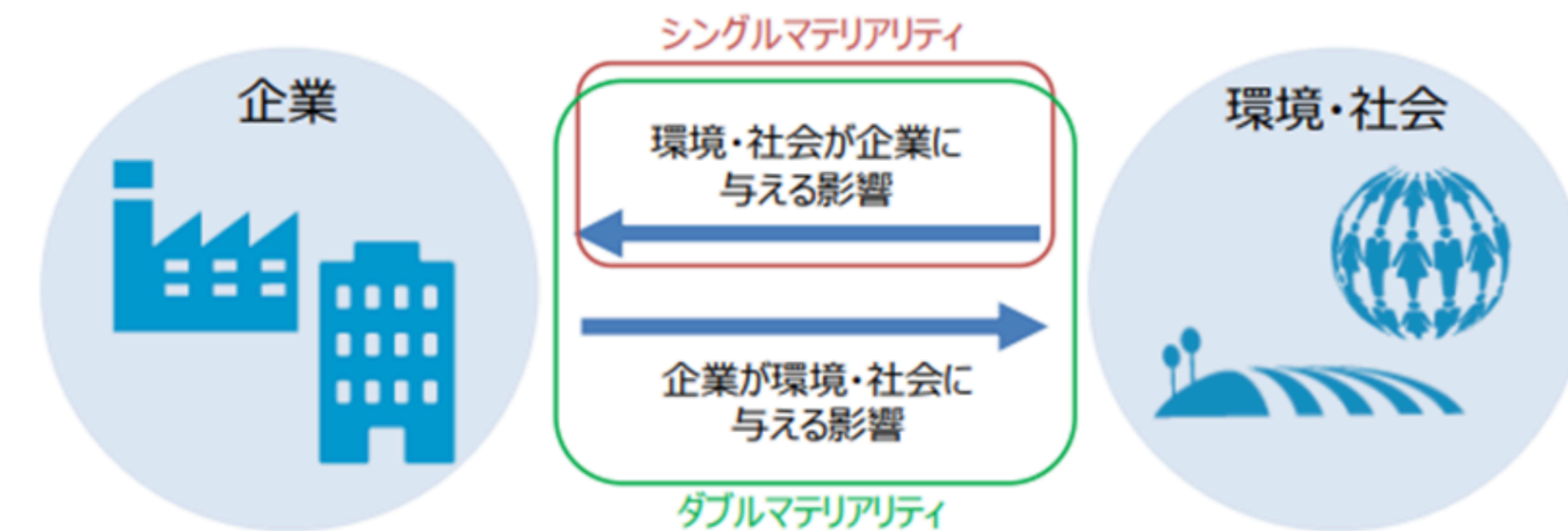
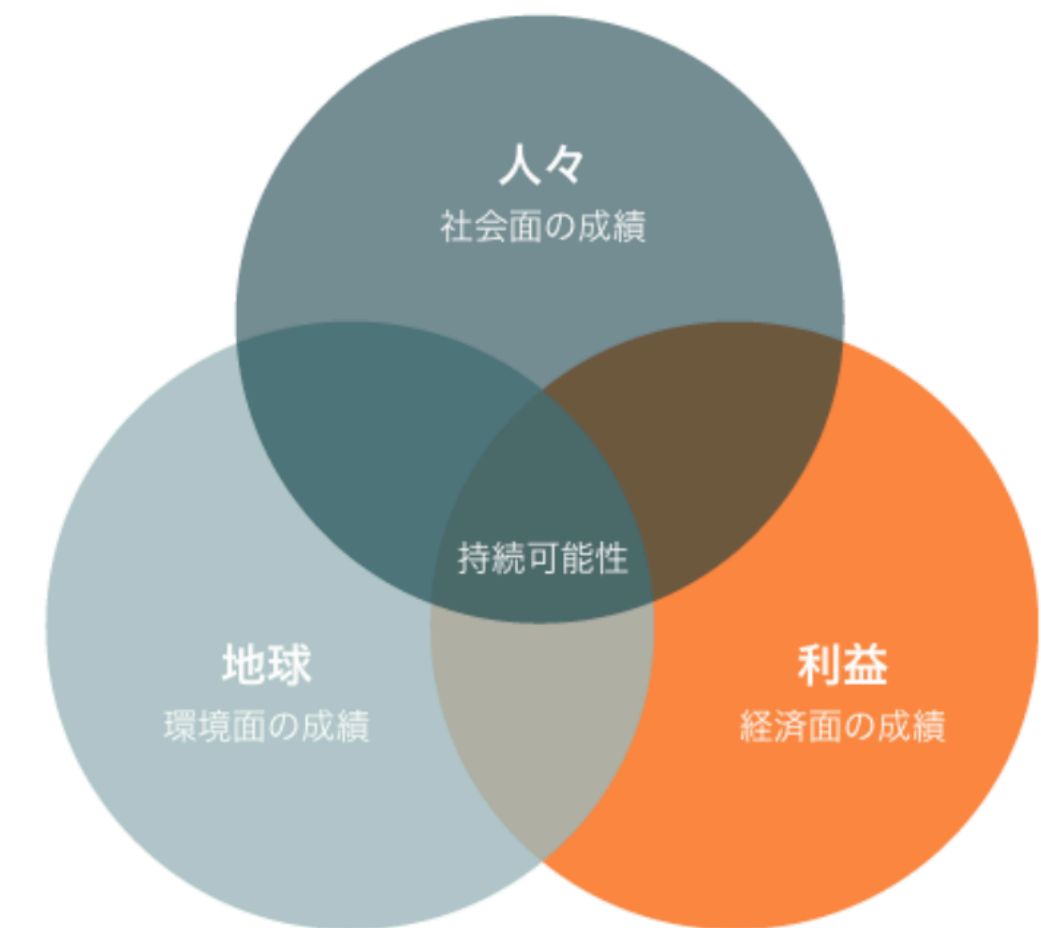
- そのために非財務（サステナビリティ）情報の開示が重要な手段であるものの、  
統一的なフレームワークは現状なし

- スコープの違い：TCFDは気候変動のみ、CDPは環境のみ
- マテリアリティのフォーカス：TCFD（⇐）、GRI（⇒）など
- 包括的か業種別のアプローチ：GRIは包括的基準、SASBは業種別の基準
- 時間軸のフォーカス：

事業や組織が生み出す一連の流れ「インプット → アウトプット → アウトカム → インパクト」

▶ ESGのパフォーマンス：インプットからアウトプットまでの計測値

▶ ソーシャルリターン（インパクト）のパフォーマンス：インプットからアウトカム・インパクトまでの計測値



事業や組織が生み出す一連の流れ「インプット → アウトプット → **アウトカム → インパクト**」

非財務情報の開示  
フレームワーク

非財務情報開示フレームワークの内、  
インパクト計測を含むもの

インパクト計測にフォーカス

TCFDなど

GRI, SASB

貨幣価値に換算

IWAI, VBA

→ 独自の手法  
(インパクトスコア、IOモデル)

貨幣価値に換算しない

IRIS (GIIN), GIIRS, IMP

→ ロジックモデルや  
セオリー・オブ・チェンジを推進